

えりも町における包括的な学校改善の推進

～「学校力向上に関する総合実践事業」地域指定中核校の取組～

えりも町立えりも小学校
学級数 8
(校長 小嶋 範彦)

I はじめに

本校は、学級数8（うち特別支援学級2）、児童数149名の学校である。平成26年度から「学校力向上に関する総合実践事業」の実践指定校となり、令和2年度からは地域指定の中核校として、指定校の近隣5校（笛舞小、東洋小、えりも岬小、庶野小、えりも中）とともに包括的な学校改善に向けてえりも町教育委員会と町立小・中学校が一体となって取組を推進している。

II 実践の概要

1 えりも町が一体となった取組の推進

(1) えりも町地域学校合同協議会

「学校力向上に関する総合実践事業」を計画的、継続的に推進するため、えりも町教育委員会が主宰となり、中核校（えりも小学校）と、指定校5校（笛舞小学校、東洋小学校、えりも岬小学校、庶野小学校、えりも中学校）による、「えりも町地域学校合同協議会」を組織した。令和2年度は、下記の計画にて合同会議と小会議を開催した。

- 第1回合同会議 学校改善の6つの側面について焦点化したものを共有
- 第2回合同会議 学校改善の6つの側面についての各校の実践と状況の交流
- 第3回合同会議 中核校の取組発表、報告会の報告内容の協議
- 第4回合同会議 学校改善の6つの側面の成果と課題のまとめ、教育局の指導・助言

この合同会議の他、毎月行われる町校長会議において「小会議」の場を設け、学校改善の6つの側面についての情報交流と学習会を行っている。

- 第1回小会議（5月校長会議） 学校マネジメントについて
- 第2回小会議（6月校長会議） 落ち着いた学習環境について
- 第3回小会議（7月校長会議） 教育課程・指導方法について
- 第4回小会議（9月校長会議） 人材育成について
- 第5回小会議（10月校長会議） 働き方改革について
- 第6回小会議（11月校長会議） 家庭・地域等との連携について

(2) えりも町教育向上推進委員会との連携

平成2年度に、町内の児童生徒の学力、体力、道徳、生徒指導等について小・中・高等学校が一体となった取組を推進するため、「えりも町教育向上対策委員会」が設置された。平成24年度からは学力向上に特化した取組を行っている。平成31（令和元）年度より「えりも町教育向上推進委員会」と名称を変え、3つの方針に基づいた3つの取組と3つの方策を全町で共有し、実践を深めている。上記合同協議会運営は、この委員会が培ってきた基盤が大いに活用されている。

2 包括的な学校改善に関する中核校の実践

(1) 学校マネジメント（重点：客観的な目標数値の設定と学校評価と連動したマネジメントサイクルの確立）

全国学力・学習状況調査や全国体力・運動能力、運動習慣等調査の他、児童の実態を把握するため、本校独自で授業、家庭学習、生活、道徳、ほっと等について児童の実態を「えり小アンケート」で把握している。その結果を短・中期スパンで分析し、改善を図っている。職員評価の「各種調査結果を基に対策を立て、授業改善を行うことができた」のAB評価は92%（目標85%）である。

4月 えり小アンケート① 学しゅうへん

学年 名前

A…たいへんあてはまる B…あてはまる C…あまりあてはまらない D…まったくあてはまらない

番ごう	しつもん	1つOをつけましょう。			
		A	B	C	D
1	学校は楽しい。				
2	学校のべん強は、よくわかる。				
3	教室では、べん強にしゅう算して				
4	ずすんで学しゅうをしている。				
5	友だちと話しあうっていいしよ				
6	じゅぎょうのはじめに、かたい				
7	じゅぎょうのしりとりあそびがある				

①学習編 20問、②生活編 23問、③その他 17問の3部構成となっている。

(2) 落ち着いた学習環境（重点：学校内の整理整頓、学習規律の徹底）

学習環境を整えるため、「えり小スタンダード」を定め児童・教職員が学習規律について共通理解を図り、定着に向けた取組を行っている。また、保護者版を作成し、家庭と連携して定着を目指している。児童評価「えり小スタンダードを守り、学習することができた」のAB評価が90%（目標90%）、職員評価「えり小スタンダードを指導し、学習規律を徹底することができた」のAB評価は100%（目標85%）である。

えり小スタンダード

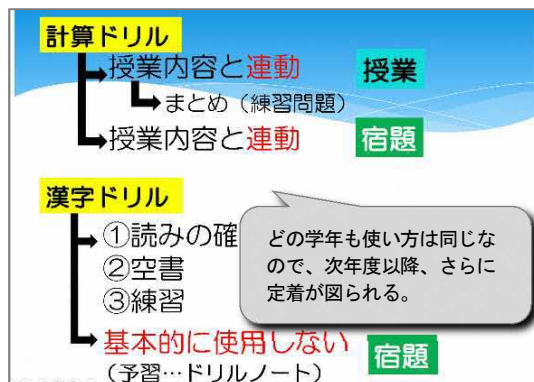
学習のきまり、机の上、生活のきまり、学校に

児童版、保護者版、教師版

児童版の他、家庭版、教師版も作成し、3者が内容を共有。

(3) 教育課程・指導方法（重点：授業とのつながりや主体的な学習態度の育成を重視した家庭学習の促進）

これまで各担任が選定していたドリルを、全校で出版社とシリーズを統一した。このことにより、授業や家庭学習において、ドリルをどのように取り扱うかについて共通した指導ができるようになった。児童評価「毎日時間を守って家庭学習ができた」のAB評価は82%（目標90%）、職員評価「家庭学習の習慣化を指導することができた」のAB評価は85%（目標90%）である。



(4) 人材育成（重点：日常実践に直結する校内研修の促進）

専門・得意教科での個人研究を充実させることで、自信をもてる授業づくりを目指した。教材開発及び指導技術に関する共同研究では、主体的・対話的で深い学びの充実に向けて、「学び合い」を活性化させる授業改善に取り組んでいる。

また、学級担任6名中4名が道外先進校の視察を行ったことで、「まずはやってみよう」と意欲的な雰囲気が一気に広まり、全校で日常の授業改善が図ら

学び合いを活性化させる座席隊形

低学年 コの字型

中・高学年 グループ型

学び合いを促す教師の役割

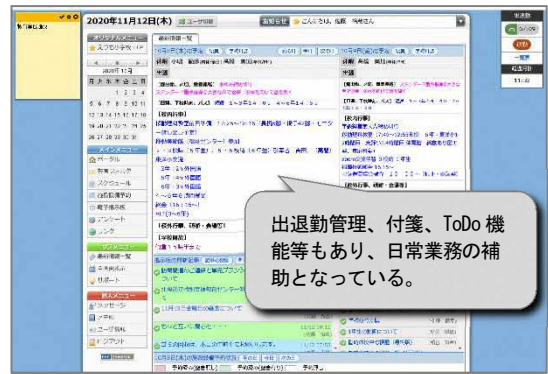
聴く、つなぐ

教師は、子どもの思考（発言）を“つなぐ”コーディネーター。

れている。

(5) 働き方改革（重点：校務支援システム等の ICT 活用の導入による業務の効率化）

働き方改革で初めに着手したのは、職員室内の環境整備である。窓際の棚、職員室の机上、ロッカーや書棚の整理から始め、まずは全職員が視覚的にゆとりをもてるようにした。また、グループウェアの導入による打合せや会議の工夫など、学校運営の仕組みを改善した。職員評価の「業務を効率化し、時間外勤務の縮減に努めることができた」の AB 評価は 100%（目標 90%）である。



(6) 家庭・地域等との連携（重点：学校の教育活動の積極的な発信による情報提供）

本校の Web ページを WordPress 方式にリニューアルした。簡単に更新することができるので、課業日毎日更新している。20,000 アクセスに到達するまで、旧ホームページは 7 年間かかったが、リニューアル後 1 年間で達成した。また、学級連絡網を廃止し、学校メールを導入した。アンケート機能を活用して、学校評価や PTA 活動の集約も行っている。



3 校長等のリーダーシップに関する中核校の実践

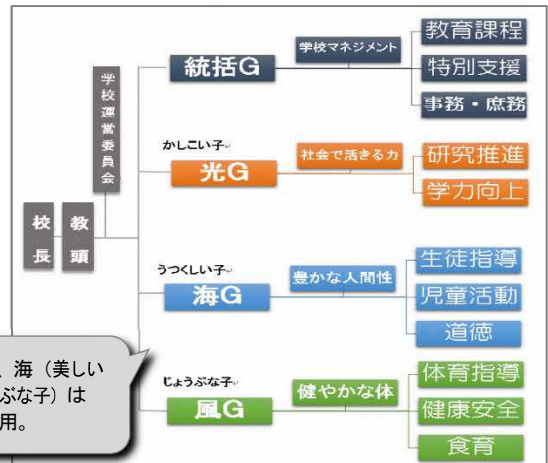
(1) 経営理念や経営方針の浸透（重点：教育理念や経営方針の明確化）

年度の重点（校務分掌グループの重点）に特化した学校改善プランを策定している。また、学校改善プランの他、職員評価、児童アンケート、保護者評価や学級経営案、あゆみの発行など、あらゆるものを前・後期制で統一した。職員評価「検証改善サイクルで学校改善プランを策定し、取組を推進することができた」の AB 評価は 92%（目標 85%）である。

分掌グループで数値目標を定め、具体的な取組を明記している。

(2) 協働意識の高揚（重点：校務分掌を工夫した組織体制の確立）

従前の校務分掌ではなくグループ制を組織した。教務業務を中心とする「統括グループ」、研修や学力向上に関する「光グループ」、生徒指導等に関する「海グループ」、体育・健康安全、食育に関する「風グループ」の 4 つに分けた。また、事務職員は教務業務を中心とする統括グループに所属させ、教務業務にも携わっている。職員評価「校務分掌業務を精選し、組織で推進することができた」の AB 評価は 100%（目標 85%）である。



(3) コミュニケーション（重点：温かい人間関係を基盤とした職員室づくり）

本校は各学年単学級であるため、学級担任が孤立しやすい。そこで、指導方法工夫改善加配や創意工夫加配を副担任として配置し、学級担任を支援している。

また、職員室内中央にミーティングテーブルを設置し、対面による打合せや相談などが気軽にできるような環境も工夫している。職員評価「積極的に職員間の連携や親睦を図るなど、同僚性を高めることができた」のAB評価は92%（目標90%）である。



(4) 人材育成（重点：学校職員評価制度（業績評価及び能力評価）の効果的な活用）

経営方針や年度の重点を踏まえ、人事評価シートをさらに効果的に活用するため、学級経営案の項目を人事評価シートの項目の3つと揃え連動性をもたせた。こうすることにより、学級経営案の実現が人事評価シートの目標達成となる。学校評価「経営方針や年度の重点を踏まえた学級経営に努めることができた」のAB評価は90%（目標85%）である。

前期（4～9月）

	学習指導	生徒指導	いじめ対応
目標	自分の考えを相手にわかりやすく発表でき、自分の考えから共通点や相違点を考えながら聞く力の養成を図る。	子供数の増加が多く、子供の関わる力の育成を図る。自己肯定感を高める。	いじめの防止を図るため、言葉遣いに気を付ける。
現状・実態	学習4 参加型学習の定着。学習4 自分の考えを相手にわかりやすく発表できる。70%。 [添削、発表活動]	生徒20 自分の意見を尊重することの理解が定着している。75.0%。 [対話活動、グループ学習]	生徒7 適切な言葉遣いをするこができる。82.2%。
数値目標	学習4 90% 生徒4 95%		
目標達成のための具体的な取組方法等	①自分の考えをもてるよう、討議の用意や、理由を考えた発言の時間を確保をする。 ②ペア学習や、グループ学習を取り入れる。 ③相手にわかりやすく伝えるために指書を書かせる。（文章中の新しい言葉に着目するなど。）		
成果	基礎力や読解事項を振り返ることで、自分の考えをもつこ	友達同士で解決できるように、TOOLを使って100%	「うさぎ」や「きらい」で片付けず、何が嫌だったのかを書き

効率化の側面もあるが、これまで以上に取組の重点化が図られた。

4 加配活用の取組

(1) 複式校における巡回専科指導

加配教員は、中核校（本校）と4つの指定校（笛舞小学校、東洋小学校、えりも岬小学校、庶野小学校）の合わせて5小学校の高学年の教科担任（図工、書写）として巡回指導を行っている。これにより、複式校の担任に空き時間を確保することができた。

また、町内の同学年の全ての児童が、より専門的な指導を受けることができ、図工の作品の質が向上している。



(2) 事務職員（新たなミッション）による学校運営参画

平成26年度より加配されており、主に給食運営委員会、PTA 関連事業、時数集計（入力）、学級会計、学校ホームページの更新作業、各種調査関係のデータ入力、連絡票印刷等に主体的に関わり、教頭や教諭の時間外勤務削減に大きく貢献している。今後は、GIGAスクール構想によるICT機器の取り扱いや管理についても、主担当となるよう準備を進めている。

令和元年度 教育課程実施時数

種別	上段: 予定時数		中段: 実働時数		下段: 達成率		ひまわり記 全席		ひまわり記 空席	
	原	備	原	備	原	備	原	備	原	備
国語	3, 26, 20	87, 143	5, 66, 26	69, 146	15.2%	10.4%	31, 21, 24	47, 117	71.2%	53.0%
英語	14, 34, 27	75, 155, 265	11, 22, 26	70, 142, 250	78.6%	67.7%	8, 21, 18	48, 91, 200	40%	40%
算数	195, 316, 306	1105, 956	205, 326, 326	1106, 976	56.4%	61.3%	102, 27, 4	112, 27	57.4%	61.3%
社会	4, 15, 15	24, 42	4, 15, 17	24, 42	100%	100%	205, 116, 105	108, 116	100%	100%
音楽	7, 21, 26	41, 105, 146	7, 21, 26	41, 105, 146	100%	100%	4, 12, 12	40, 39	81.8%	81.8%
理科	115, 145, 135	145, 135	105, 135, 115	105, 135, 115	91.3%	93.0%	10, 10, 10	10, 10, 10	100%	100%
福祉	3, 10, 11	24, 57	4, 9, 15	24, 57	13.3%	10.4%	1, 1, 1	1, 1, 1	100%	100%
生活	4, 13, 13	53, 61, 110	4, 13, 13	53, 61, 110	100%	100%	1, 1, 1	1, 1, 1	100%	100%
体育	15, 21, 21	15, 26	15, 26	15, 26	100%	100%	1, 1, 1	1, 1, 1	100%	100%
音楽	3, 3, 3	20, 42, 65	3, 3, 3	20, 42, 65	100%	100%	1, 1, 1	1, 1, 1	100%	100%
英語	205, 126, 136	1105, 1175	205, 126, 136	1105, 1175	100%	100%	1, 1, 1	1, 1, 1	100%	100%
図工	2, 6, 6	141, 26	2, 6, 6	141, 26	100%	100%	4, 4, 4	14, 14, 14	100%	100%
書写	5, 6, 11	24, 26, 65	4, 6, 11	23, 27, 65	80%	67.7%	105, 105, 105	105, 105	100%	100%
家庭	205, 135, 165	1175, 935	115, 145, 135	145, 875	56.4%	61.3%	105, 105, 105	105, 105	100%	100%

入力と共に、達成率の点検も行い、教務主任へ報告している。

Ⅲ 今後に向けて

1 教職員の意識改革のために

多くの課題を解決していく過程では、管理職のリーダーシップにより、ある程度外枠の改善を図ることは可能であるが、真(芯)の改革のためには教職員一人一人の意識改革が必要不可欠である。例えば、本校では、前述の“職員室のレイアウト変更”において、教職員に考えさえ、任せ、実行させた。全ての改善をトップダウンではなく、教職員が「変えたい」「変えてみよう」から「やればできた」「やってみたらよかった」と思えたことは、成功体験としても大変効果的であった。

また、ミニ研修やグループウェアによる管理職からの情報提供や啓発、指導・助言を行ったことも効果的であった。特にグループウェアを活用し、校長通信や文科省や道教委の通知、リーフレット等をPDF添付することで、用紙の節約とともに自宅や外出先などからでも自分の読みたいタイミングで読むことが可能となった。また、掲示板機能では全員がコメントを書き込むことができるので、一つの案件に対してわざわざ担当者全員が集まる時間を設定することなく、容易に意見調整や情報交換をすることができた。

一方で、その改革がどれだけ教職員のために、子どもたちのためになるものであったとしても、教職員が根拠や情勢を理解し、納得して改善を図ることが極めて重要である。そのためには、時に管理職等が直接言葉で丁寧に説明、指導・助言する機会も大切である。教職員が理解・納得するための機会(会議、研修、打ち合わせ等)を、時間外勤務の縮減と並行しながら意図的・計画的に確保できるかどうか、今後の課題の一つでもある。

2 成果の普及と統一した取組のために

えりも町では、平成2年度より続く教育向上推進委員会の継続的な取組によって、町内小・中・高等学校が児童・生徒の教育向上に向けて一丸となって実践を積み重ねていく素地ができあがっていた。今年度は教育向上推進委員会の理事研修会と同日・同会場にて「えりも町地域学校合同協議」を開催し、教育向上推進委員会の目標や方策とも連動させながら重点的な実践を積み重ねている。指定校においても実施計画書に沿って取組を推進し、小会議において実践発表、協議・交流を行っている。

このように、えりも町全体として中核校の実践を踏まえ、指定校がさらに工夫しながら学校改善に取り組むことができた。

一方で、包括的な学校改善、校長等のリーダーシップに関する取組については、えりも町全体の、より具体的な到達目標の設定が必要であると考え。今後、今年度の実践を評価・分析し、町内全校が共通して取り組む具体的な方策を検討していくこととしている。

笛舞小学校では、働き方改革の項目としてICT活用による業務の効率化を重点とした。

“学校からの情報発信方法の工夫と改善”として、保護者アンケートを踏まえて情報発信方法とその役割について整理し、学校メールやHPを効果的に活用しながら改善を図った。

学校力小会議「働き方改革について」
令和2年11月16日
笛舞小学校 櫻井 亮

1 学校力向上に関する総合実践事業 実施計画書より

2 取組内容
①包括的な学校改善に関する内容
○働き方改革
ア 全教職員による業務の見える化や課題の明確化、改善策の決定
イ 校務支援システム等のICT活用の導入による業務の効率化
ウ 事務職員の校務運営への参画

【本校の実施計画】

- ・事業内容… 校務運営委員会の定例化、定時退勤日の設定などによる業務の効率化
- ・具体的な取組…定期的な校務運営委員会を実施し、職員会議の提案事項の事前検討を行い、会議の合理化を図る。
- ・到達目標… 学校評価「心のゆとりがもてる自己健康管理に努めたか」「退勤時間の意識化に努めたか」を9.0%以上の達成率にする。

2 今年度の実践について

- 「笛舞小アップデート」(業務の質の向上を目指す)による、組織的な業務改善 **資料1**
- ・当事者意識、必要感、納得感の醸成
- ・4つの改善項目の取組
- 職員の勤務時間管理と長時間勤務の縮減
- ・タイムカードの活用による自身の勤務時間の可視化 **資料2**
- ・日課の工夫
- ・学校からの情報発信方法の工夫と改善(保護者アンケート)

3 今後の課題

- 到達目標の達成